

県立大学新棟等の基本設計の概要について

平成 29 年 2 月 6 日

知 事 政 策 局

1 整備の基本方針

- ・魅力的なキャンパスづくり（県内外の学生から選ばれる、魅力的な教育研究環境の整備）
- ・学生を大きく伸ばす学びの場づくり（主体的な学習や課題解決学習の推進）
- ・地(知)の拠点としての大学づくり（先端的な研究や企業との共同研究の推進）
- ・地域に開かれた潤いのある環境づくり（太閤池周辺の緑を活かした交流の場づくり）

2 基本設計の概要

(1) 建物の概要

- ① 構 造：新 棟 → 鉄筋コンクリート造（9 階建：高さ約 42m）
学生会館 → 木造（2 階建：県産材使用）
- ② 延床面積：新 棟 → 19,725 m²
学生会館 → 900 m²

(2) 設計の特徴

- ・富山県のアルミ技術を活かしてデザインした地域のランドマークとなるシンボリックな外観
- ・学生や教員の交流を創出する、明るく開放的な「吹抜けホール」や「アカデミックモール」
- ・学生等の利便性・快適性に配慮したゾーニングと各階の諸室配置
- ・太閤池周辺の緑豊かな環境と調和し、学生にやすらぎを与える県産材を使用した「木造の学生会館」

3 概算整備費

約 82 億円（金額精査中、外構整備費等は含まない。）

（＊）2 月県議会に予算案を上程予定

4 今後の予定

平成 29 年 2 月 ～ 平成 29 年 7 月	実施設計
平成 30 年 1 月 ～ 平成 31 年 12 月	工 事
平成 32 年 4 月（予定）	開 設

〈問合せ先〉 知事政策局 総合教育会議・高等教育振興担当（内線 2415 直通 076-444-8912）



◆ 地域のランドマークとなるシンボリックなデザイン

- ・建物外周部に設けるメンテナンスバルコニーの外部に、富山の地場産業でつくるアルミスクリーンを設置し、とやまらしい外観を演出する。アルミスクリーンのカラーは、高岡の伝統産業に使われる銅とアルミのシルバーの二色を組み合わせる。
- ・東西に通る軸線「キャンパスプロムナード」をガラススクリーンとし、西側の県道から見て、一目でわかる大学の新たなエントランスゲートを創造する。
- ・低層部は、既存棟の色彩と一体感を持たせ、キャンパス全体の調和を図る。
- ・高層部はコンパクトな「コの字型」の形状とし、隣接する既存棟への圧迫感を抑えたデザインとする。



◆ 建物構造・規模等

建 物	構 造	階	階 構 成	延床面積(㎡)
新 棟	鉄筋コンクリート造	9 F	医薬品工学科	1,601 ㎡
		8 F	医薬品工学科	1,771 ㎡
		7 F	医薬品工学科、環境・社会基盤工学科	1,792 ㎡
		6 F	環境・社会基盤工学科	1,767 ㎡
		5 F	電子・情報工学科	2,034 ㎡
		4 F	機械システム工学科、知能デザイン工学科	1,835 ㎡
		3 F	教養教育	1,853 ㎡
		2 F	講義室等	3,247 ㎡
		1 F	オープンホ、地域連携センター、実験室等	2,897 ㎡
		B 1 F	中央監視室等	928 ㎡
小 計				19,725 ㎡
学生会館	木 造	2 F	学生会室、相談室、部室等	450 ㎡
		1 F	ホール、ロビー、部室等	450 ㎡
	小 計			
合 計				20,625 ㎡

学生会館

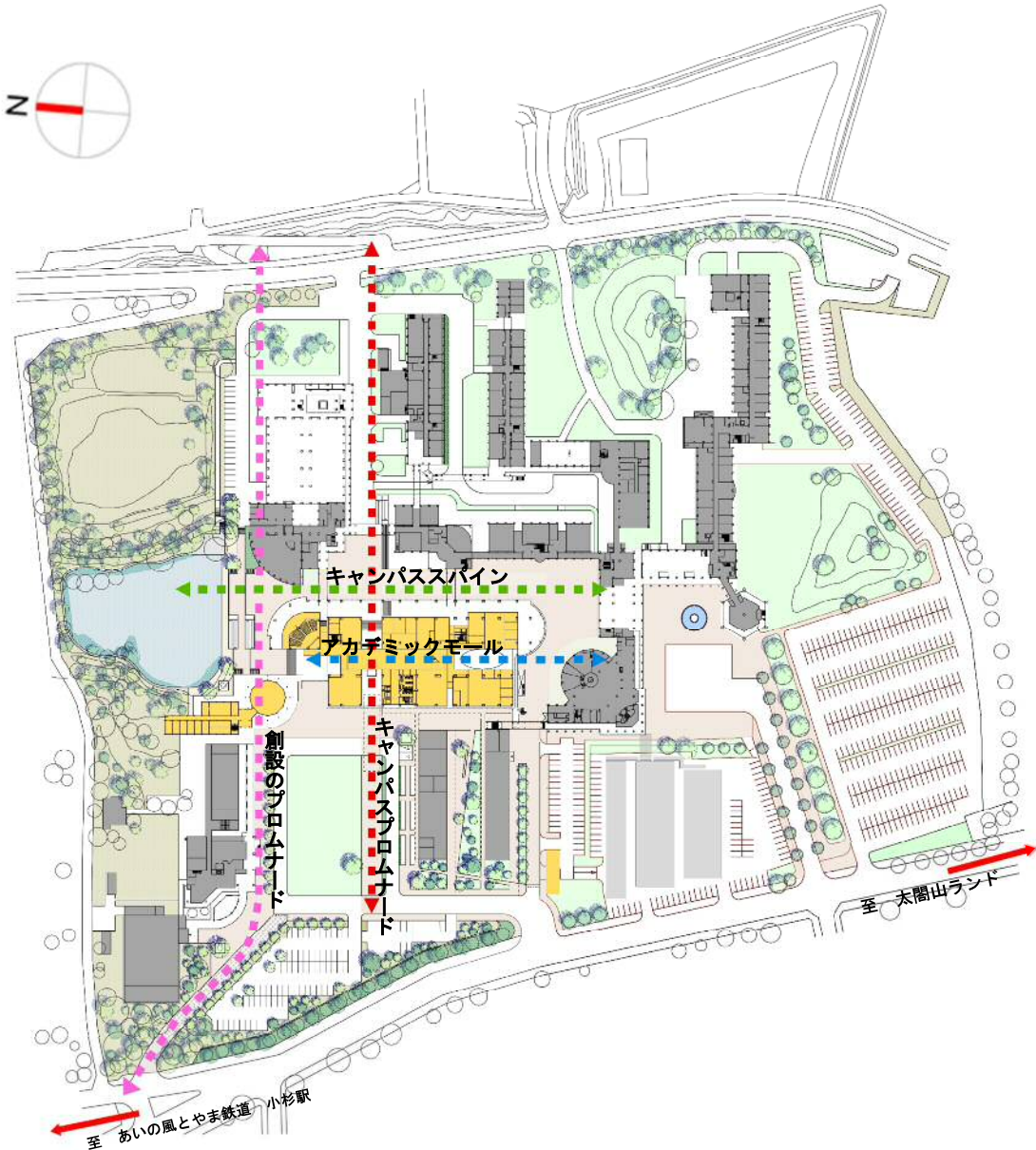
富山県立大学新棟新築等工事 基本設計の概要②

- ◆ 明るく、開放的な吹抜けホールや4つの軸線により、学生や教員の交流を創出
＜4つの軸線＞
- ・「アカデミックモール」は図書館から大講義室、学生会館に向かう軸線で、新棟の吹抜けホールを南北に貫き、互いの様子が見える廻廊に沿って学習・研究の交流空間を構成する。
 - ・「キャンパススパイン」は本部棟から太閤池に向かう軸線で、新棟のラーニングcommonsやテラス等と連続した学生・教員の交流空間を構成する。
 - ・「キャンパスプロムナード」はキャンパスの顔となる新棟を東西に貫く軸線で、新旧キャンパスを一体化する。
 - ・「創設のプロムナード」は大谷講堂から学生会館、太閤池、食堂、体育館をつなぐ軸線で、学生の主体的な学びと快適なキャンパスライフを支える。



アカデミックモール

新棟の吹抜け空間を南北に貫き、アクティブラーニングスペース、オープンラボ、地域連携センター、大講義室、学生会館へとつながる、交流空間を創出する。

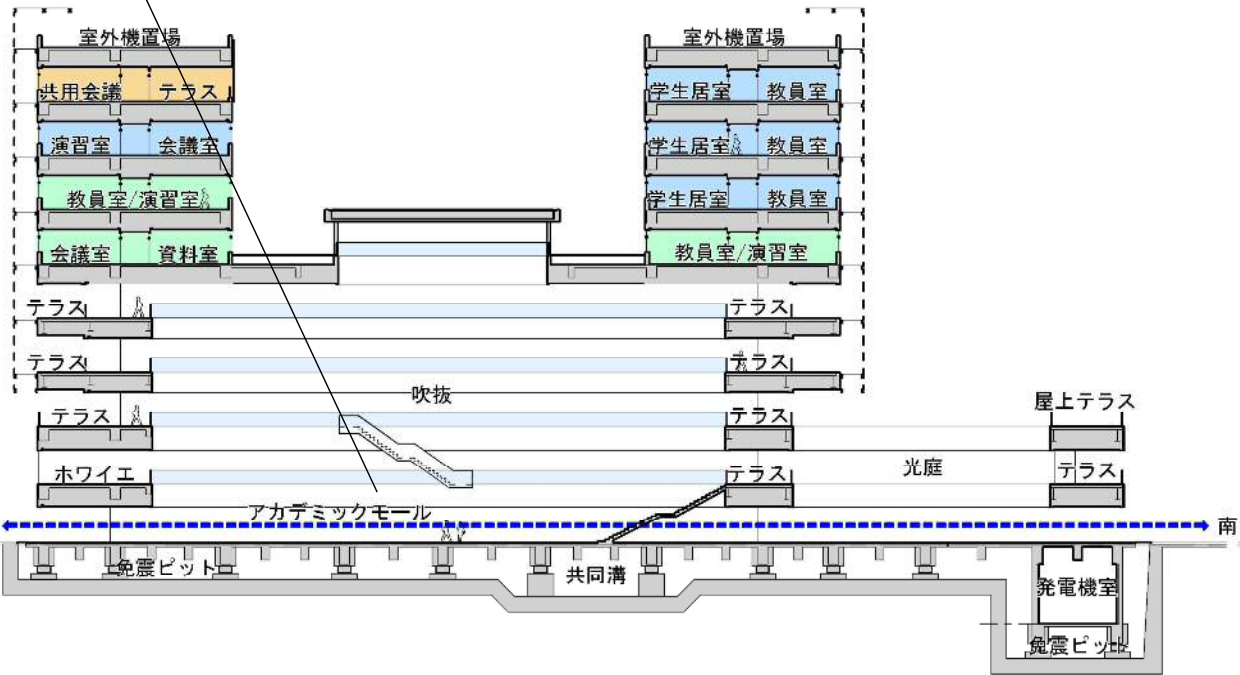
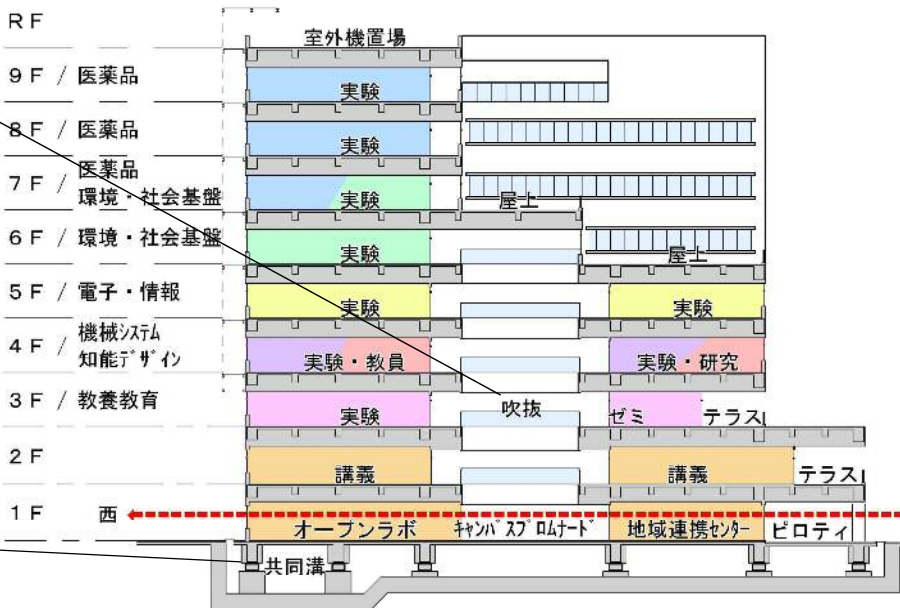


吹抜けホール

6Fまで突き抜けた大きな吹抜け空間の廻りには廻廊があり、互いの学習・動きが見える。また、吹抜け空間を設けることで、自然採光や自然通風に配慮するなど、快適な教育環境を創出する。

免震装置

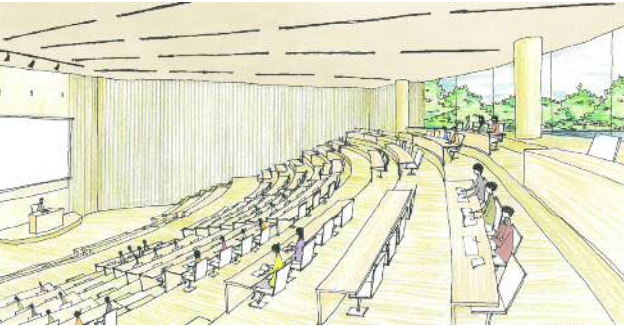
高い建築物（高さ約42m）であることから、高層部の揺れの大きさなどを考慮し、免震構造とする。



富山県立大学新棟新築等工事 基本設計の概要③

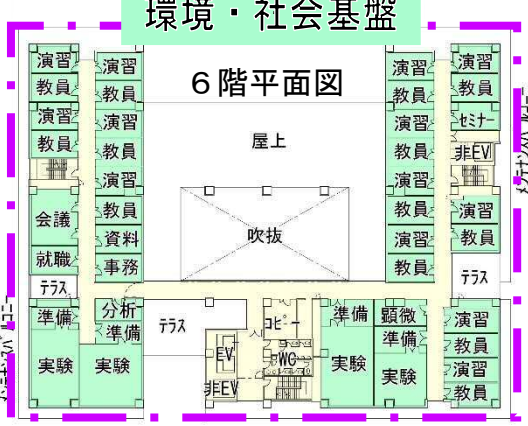
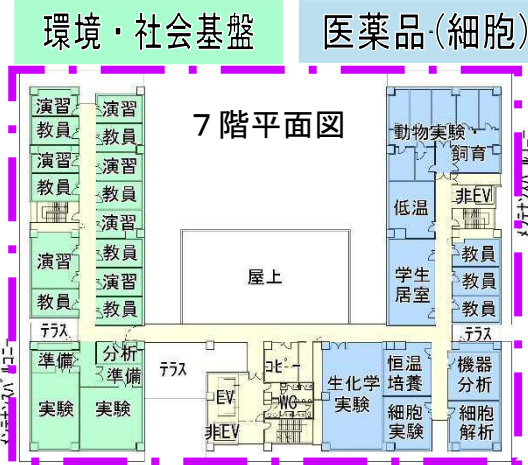
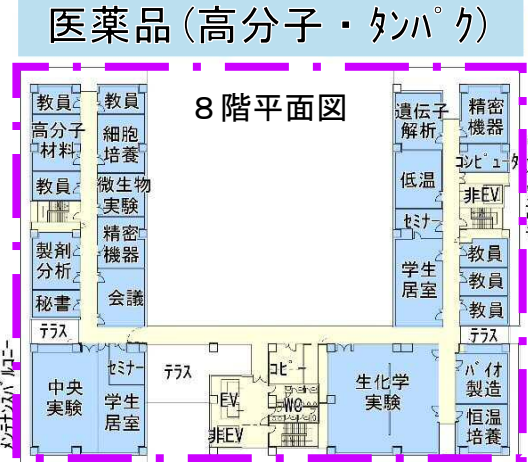
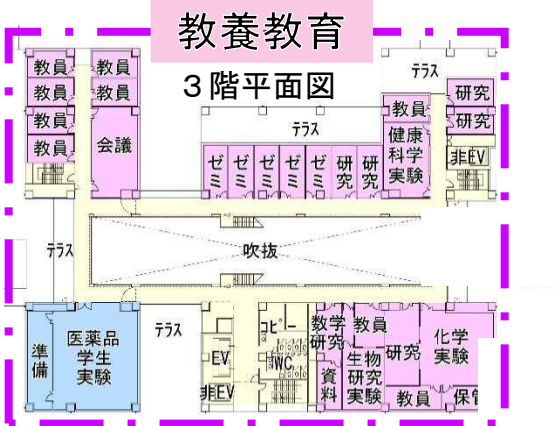
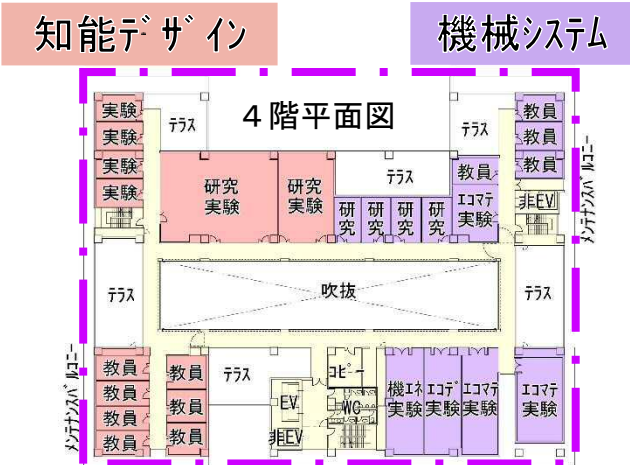
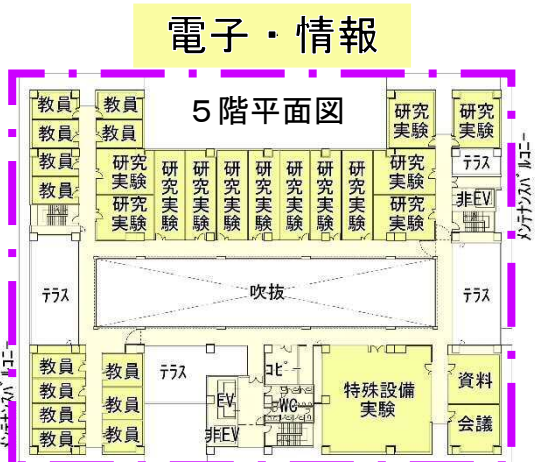
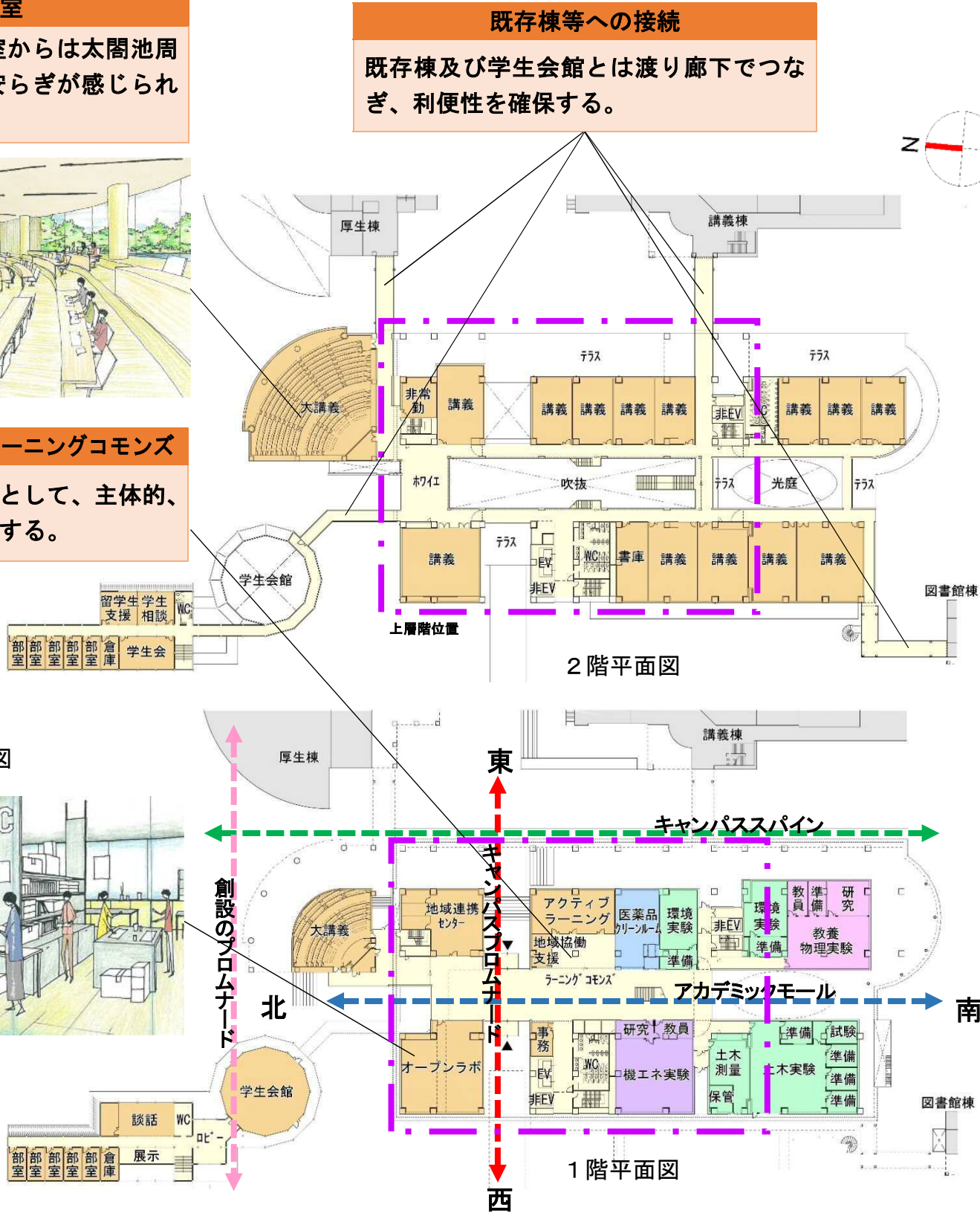
- ◆ 学生等の利便性・快適性に配慮したゾーニングと配置計画
 - ・【低層部】は地域に開かれた大学として、産学官が一体となって利用しやすい空間とする。
(1階：大講義室、アクティブラーニング、ラーニングcommons、オープンラボ、実験室、学生会館、2階：講義室)
 - ・【中層部～高層部】は専門性の高い研究・実験室ゾーンとし、各階の中央コア部にはコピーやメールボックス等の事務ユーティリティを配置する。
 - ・南北の通風に配慮しながら西向き居室を最小限とする建物形状とする。
 - ・南側は2階までの低層、東側は「コの字型」に分節された段状の構成とし、既存棟等への圧迫感を軽減する。

大講義室
北側に配置した大講義室からは太閤池周辺が一望でき、潤いと安らぎが感じられる空間とする。



アクティブラーニング・ラーニングcommons
学生が自由に使える空間として、主体的、課題解決型の学習の場とする。

オープンラボイメージ図



富山県立大学新棟新築等工事 基本設計の概要④

◆ 太閤池周辺の環境と調和した、県産材を使用した「木造の学生会館」

- ・ 太閤池周辺の緑豊かな環境と調和し、地域に開かれた新たな交流の場として、居心地がよく、親しみを感じられる建物とする。
- ・ ホールや談話室など、パブリックなゾーンが太閤池に面した開放的なつくりとする。
- ・ 壁面、天井面の仕上材や構造材に県産材を使用し、温もりとやすらぎを感じられる空間を創出する。



完成イメージ図



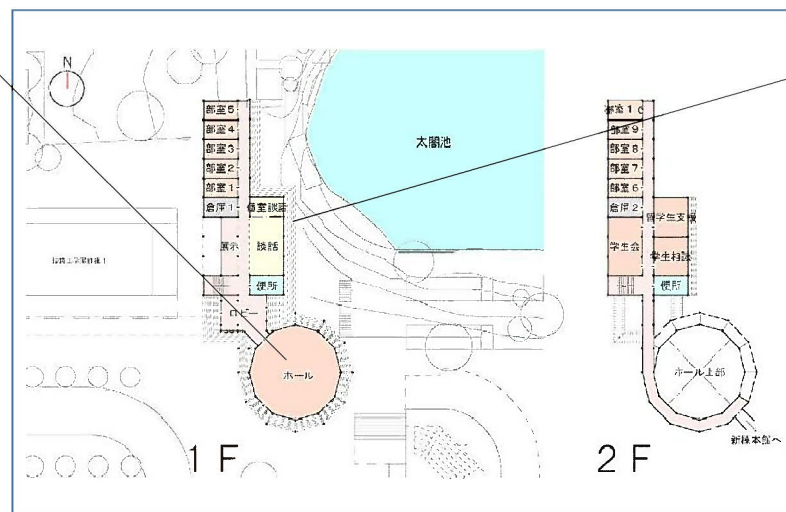
完成イメージ図

学生会館 ホール

ホールは2層吹抜けの12角形とし、全面から光が注ぐ形状とする。内部は木の香りを感じられるよう、県産材を内装材として使用する。



完成イメージ図



学生会館 テラス

学生会館には、学生だけでなく大学を利用する者にとって、やすらぎを感じる憩いの場となるよう、太閤池に面してテラスを設ける。

